

金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会の現地調査について

1. 調査日時 平成 24 年 7 月 5 日（木）10:00～16:00

2. 調査場所 岩手県宮古市および大槌町

3. 参 加 者 金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会の委員 6 名
吉岡座長、荒井委員、棚谷委員、山本委員、横江委員、坂井委員

4. 調査結果

（1）災害廃棄物の状況

- ・ 岩手県の災害廃棄物の推計量は、約 525 万トン（岩手県内の一般廃棄物発生量の約 12 年分に相当）
- ・ できる限りの県内処理と復興資材化に努めても、平成 26 年 3 月までの処理は困難で、約 119 万トンについて広域処理が必要
- ・ 広域処理の見通しが立った量は、可燃物と柱材・角材の約 24 万トン
- ・ 処理方法が未確定なものの量は、不燃物と漁具・漁網の約 95 万トン
- ・ 二次仮置場では、可燃系混合物と不燃系混合物を破碎、ふるい、手選別などで中間処理をしている。宮古地区は鹿島建設 JV が、大槌地区は竹中土木 JV が県から委託を受け、プラントを運営している。
- ・ 粉じん、アスベスト、硫化水素等の有毒ガス、悪臭、騒音・振動については、毎日測定している。
- ・ 現在の広域処理先は、東京都、秋田県（大仙市）、吾妻東部衛生施設組合（群馬県）で放射能濃度等の測定は、搬出時ごとに行っている。

（2）放射能濃度の測定

広域処理の対象となっている選別後の災害廃棄物（下記の 5 種類）を委員の指導により試料採取し、現地で委託業者が放射性セシウム濃度を測定。

（宮古市藤原埠頭）

- ① ふるい下分（概ね 20mm 以下の土砂等）…いずれも不検出
- ② 不燃物…いずれも不検出
- ③ 漁具・漁網…8.6～12 ベクレル/kg

（大槌町）

- ④ 可燃物（概ね 20mm 以下）…65～67 ベクレル/kg
- ⑤ 可燃物（概ね 50mm 以下）…44～63 ベクレル/kg

※すべて国の受入れ基準を下回っている。

（国の受入れ基準）

- ・ 焼却前（ストーカ炉）… 240 ベクレル/kg 以下
- ・ 焼却後の灰、不燃物 … 8,000 ベクレル/kg 以下
- ・ 再生利用 … 100 ベクレル/kg 以下

(3) 放射線量の測定

上記5種類の災害廃棄物の付近で、市職員が放射線量を測定。

(宮古市藤原埠頭) 13箇所での測定

・0.05~0.07 マイクロシーベルト/時

(大槌町) 9箇所での測定

・0.06 マイクロシーベルト/時

※金沢市内65箇所では0.04~0.08 マイクロシーベルト/時 (H24.3~4測定)

(4) その他

水銀、カドミウム、鉛、PCBなどの有害物質についても、基準を上回るものは検出されていない。



① 中間処理プラント



② 概ね 20mm 以下の土砂等



③ 不燃物



④ 漁具・漁網

大槌町



① 施設全景



② 選別作業



③ 可燃物



④ 手選別作業